

豊橋素人歌舞伎を語る

豊橋素人歌舞伎保存会は、豊橋で芝居が好きな人が集まって昭和61年に結成された、比較的新しい団体です。そのためどんな方でも新たに始めやすく、50代で入り、定年後も続いている方もいます。

最初からうまく演じられる人はいません。やる気があることが重要で、優秀な師匠の指導の下、誰でも役を演じられるようになります。

素人歌舞伎と言いながらも演じる舞台はプロと同じ穂の国とよはし芸術劇場「プラット」です。立派な衣装や、かつらを使い、きれいに化粧をして舞台に立つとスターになつたかのような気持ちになります。自分が化粧をした姿を見て、ほれぼれしている80代の男性もいました。

もしも本番でせりふを忘れてても舞台袖から大声で教えてくれたり、黒衣が台本を持って教えてくれたりします。そのようすも観客の笑いを誘い、楽しませます。時には観客がせりふを教えてくれることもあり、演者と観客が和気あいあいと舞台を作り上げるのが素人歌舞伎の魅力です。

特集

豊橋素人歌舞伎



豊橋素人歌舞伎保存会
会長 山本 明彦

みなさんは、歌舞伎や人形浄瑠璃といった古典芸能を観たことがありますか。市内には古典芸能を守ろうと活動する団体があります。古典芸能を観たことのない方もいれば、敷居が高いという印象を持つ方もいるかもしません。





吉田文楽を語る



吉田文楽保存会
会長 鈴木 省二

吉田文楽

吉田文楽保存会は、400年以上前から豊橋に伝わる人形浄瑠璃芝居を後世に伝えていくことを目的に練習や定期公演を行っています。こう言うと難しく感じるかもしれません、人形1体を3人で動かす人形劇をしていると考え、気軽に来ていただきたいです。実際に人形を動かすと、動き一つで、まるで生きているかのよう人に形の感情を表現できることにやみつきになり、舞台に上がると観客との一体感を味わえます。

演じている人形のせりふは太夫たゆうという語り手が担当するので、人形を動かすことに集中でき、演者の工夫次第で独自の表現をすることが可能です。

初めての方でも人形遣い3人で動かすため、気負わずに助け合いながら演じることができますし、少し間違えても観客は頑張る姿に「感動した」と声を掛けてくれます。初めての方が参加されるからこそ出来上がる劇もあります。

しかし、演技を観ると親しみやすく、演じるとさらにその魅力に気付きます。
今回は、それぞれの団体の思いや舞台裏などを紹介し、地域の古典芸能の魅力に迫ります。

問合せ 「文化のまち」づくり課(☎51-22873)





女性も参加 立役・女形

立役は男性役、女形は女性役のことです。プロの歌舞伎では全ての役を男性が演じていますが、豊橋素人歌舞伎保存会では女性も演じています。

豊橋素人歌舞伎を基礎から
実際の演目まで紹介します。



効果音も みんなで協力

舞台の進行の合図として、「チョンチョン」などと鳴るのは拍子木の音で、歌舞伎では「**梶**」と呼びます。足音などの「バタバタ」と鳴る音を「**ツケ**」と言います。裏方の仕事もみんなで協力して行います。

一味違う花道の存在感

花道は、話の展開に合わせて廊下や道など、さまざまな場所に変化します。舞台よりも客席に近い花道での演技は大きな見せ場で、観客に強い印象を与えます。



おひねりで 盛り上がる



おひねりは紙に小銭を包んだもの。好きな役者が登場したときや見得を決めた際に投げ入れ、舞台を盛り上げます。

舞う裏



舞台袖では黒衣もせりふを追い、役者がせりふを忘れたら助けます。



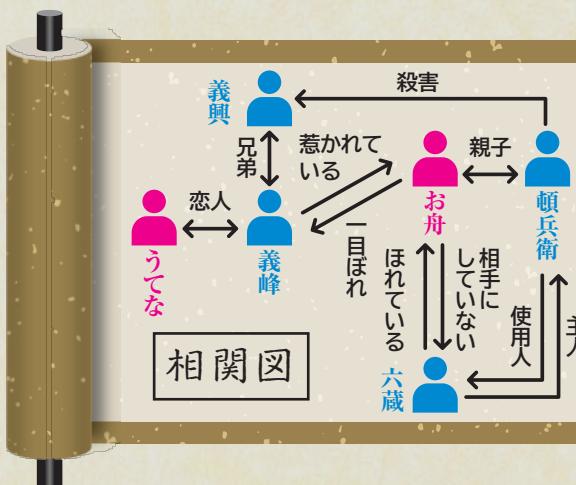
衣装と同じく、役柄の感情や表情を強調する化粧も重要です。



せりふはもちろん、所作も念入りに練習します。

續目

神靈矢口の渡し 頓兵衛住家の場



この話は頓兵衛が敵方の新田義興を川底に沈めて殺し、たくさんの褒美の金を得たところから始まります。その義興の弟、義峰と遊女うてなの二人が渡し場に来て、頓兵衛の娘・お舟に川の向こうへ渡してくれと頼みます。お舟は義峰があまりに美男子だったので一目ぼれしてしまいます。頓兵衛の家に泊めてもらうことになつ

た義峰は、お舟の情熱に押され、契りを結ぼうとするが、不思議な力がそれを拒み二人とも氣絶してしまいます。



▲六藏をうまくだますお舟

物音を聞いた、うてなの機転で二人は息を吹き返します。このようすを覗いていた使用人の六藏は義峰を捕らえようと血気にはやりますが、お舟に言いくるめられ、うまくだまされてしまいます。



▲義峰に見ほれるお舟



▲義峰を逃がせたと悟り、息絶えるお舟

お舟は深手を負いながらも、村の囲みを解く合図の太鼓を打つために櫓に登ります。これを見た六藏は打たせては一大事と止めようとしていますが、お舟は払いのけ、ばちが折れんばかりに太鼓を打ちます。あたりにこだまするその響きに、四方から囲みを解くほら貝の音が聞こえ、安堵したお舟は息絶えていくのでした。



▲金に目がくらみ、娘を打ちする
頓兵衛

舟が身代わりとなっていました。

頓兵衛は我が子を傷付けても少しも悔いを見せないばかりか、よくも逃がしたないと手負いのお舟を打ちえます。お舟は息も絶え絶えになりながらも、どうか義峰を助けてほしいと訴えますが、頓兵衛はそんな娘を尻目に義峰を逃してなるものかと、後を追って行きます。

お知らせ

豊橋素人歌舞伎保存会の会員を募集しています

年会費

6,000円

その他

3月開催の定期公演に向けて
1か月前から練習あり

申込み

随时、豊橋素人歌舞伎保存会
六川(☎090・3253・0767)





三人一役 息を合わせる

主遣い

左手で人形の頭、
右手で人形の右
手を動かします。

足遣い

両手で人形の両
足を動かします。

左遣い

小道具の出し入れ
や右手で人形の左
手を動かします。

吉田文楽を 覗く

吉田文楽を基礎から実際の
演目まで紹介します。

入門

人形の重さは約5kg!



人形は胴に手足をくくり付け、頭を挿して完成します。これにたくさんの布を重ね合わせて作った衣装を着せるため、重さは約5kgにもなります。

重たくても3人で協力して
動かすので平気!



足元に 隠れた 工夫



3人の人形遣いが身を
寄せて人形を動かすた
め、主遣いは舞台下駄
を履くことで高さのバラン
スを取ります。人形が高い位置
になるので、足
遣いは動きやすくなります。

人形遣いが 黒い着物を着る理由



人形が主役のため、人形遣
いは目立たないようにして
います。黒は無であると
いう概念から黒い着物と
頭巾をかぶると、存在しな
いと見なされます。

舞台裏



最後に人形の動作を確認します。



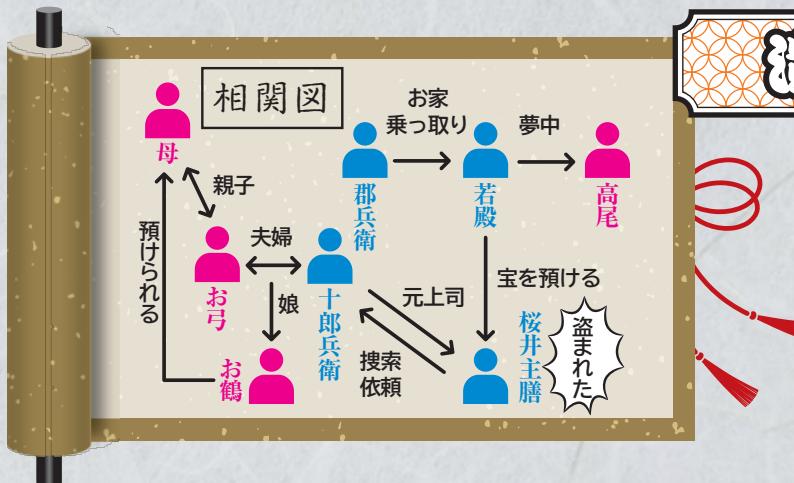
人形を組み立て、衣装を着せます。



人形の役に合わせて、衣装を仕立
て直します。

頃目

傾城阿波鳴門・ 巡礼歌の段



前段が義太夫の語りから始まります。阿波藩の藩主、玉木家の若殿が高尾という女性に夢中になっているのを幸いに、小野田郡兵衛という悪い家臣がお家の乗つ取りを企てます。この騒動の最中に、家老の桜井主膳が玉木家から預かる家宝の刀「国次」が何者かに盗まれるという事件が起きます。家老の桜井主膳は元家臣の十郎兵衛



▲女子にどこから来たのか尋ねるお弓

家でお弓が留守番をしている時に、幼い女の子が門口に立つところから八段目の演目「巡礼歌の段」が始まります。

女の子にどこから来たのか尋ねると、阿波から来て父母に会うために巡礼をしていると言います。親の名を尋ねると「ど



▲前段を語る義太夫



▲搜索に向かう十郎兵衛

に刀を探すように頼みます。そこで、十郎兵衛と妻のお弓は娘のお鶴を母に預け、大阪に出て刀を探し始めます。捜索の方法は盗賊の仲間に入り、名前も「銀十郎」と変え、質屋の蔵などに忍び込んで探すというものでした。

さまの名は十郎兵衛、かかさまはお弓と申します。「まぎれもなく、3歳の時、母の手元に残してきた我が子の「お鶴」でした。すぐに名乗ろうかと思いましたが、今の境遇では子どもまで苦労させることになります。



▲こらえきれずに泣き崩れるお弓



▲泣く泣くお鶴を帰らせるお弓

お知らせ

吉田文楽保存会の会員を募集しています

対象

小学生以上

その他

第2・4土曜日19:00~21:00に
豊城地区市民館で練習あり

申込み

随時、吉田文楽保存会 伊賀
(☎090-5624-9125)

